

国際インド債券オープン（毎月決算型）

追加型投信／海外／債券

第87期末（2019年3月11日）	
基準価額	7,094円
純資産総額	16,417百万円
第82期～第87期	
騰落率 (上昇率・下落率)	+8.2%
分配金合計（*）	420円

（注）騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率で表示しています。

（*）各期の分配金を合計したものです。

第82期（決算日：2018年10月10日）
第83期（決算日：2018年11月12日）
第84期（決算日：2018年12月10日）
第85期（決算日：2019年1月10日）
第86期（決算日：2019年2月12日）
第87期（決算日：2019年3月11日）

作成対象期間

（2018年9月11日～2019年3月11日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

当ファンドは、インドの公社債、および国際機関債を実質的な主要投資対象とし、債券からの安定したインカムゲインの確保および信託財産の成長を目指して運用することを目的としております。ここに運用状況をご報告申し上げます。

当ファンドが受益者のみなさまの資産形成に資するよう、運用に努めてまいりますので、よろしく御礼申し上げます。

- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、下記の手順で閲覧できます。
- 運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社まで、お問い合わせください。

<運用報告書（全体版）の閲覧およびダウンロード方法>

- ①右記ホームページにアクセス
- ②「基準価額一覧」もしくは「ファンド検索」から当ファンドを検索し、選択
- ③ファンドの詳細ページで運用報告書（全体版）を選択



三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
ホームページ <https://www.am.mufig.jp/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客様専用
フリーダイヤル **0120-151034**
(受付時間：営業日の9:00～17:00、
土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く)

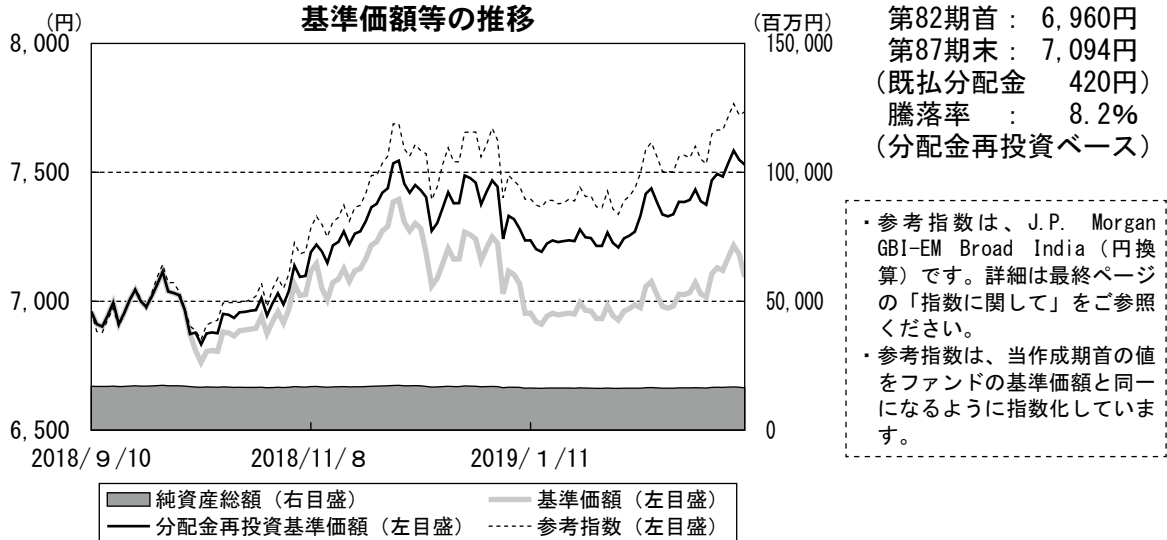
お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

運用経過

当作成期中の基準価額等の推移について（第82期～第87期：2018/9/11～2019/3/11）

基準価額の動き

基準価額は当作成期首に比べ8.2%（分配金再投資ベース）の上昇となりました。



・分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。



実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

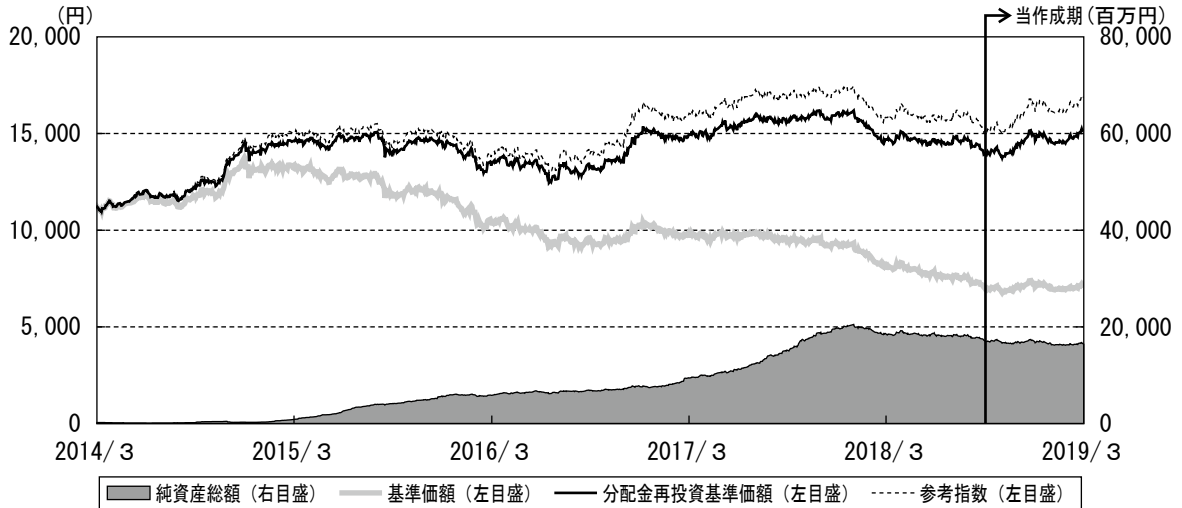
基準価額の主な変動要因

上昇要因

インド・ルピーが対円で上昇したことや、インド5年国債利回りが低下したことなどが基準価額の上昇要因となりました。

最近5年間の基準価額等の推移について

(2014年3月10日～2019年3月11日)



- ・分配金再投資基準価額、参考指数は、2014年3月10日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。
- ・海外の指数は基準価額の反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

最近5年間の年間騰落率

	2014/3/10 期初	2015/3/10 決算日	2016/3/10 決算日	2017/3/10 決算日	2018/3/12 決算日	2019/3/11 決算日
基準価額（円）	11,131	13,198	10,367	9,741	8,091	7,094
期間分配金合計（税込み）（円）	—	1,280	1,920	1,620	1,560	1,200
分配金再投資基準価額騰落率	—	31.4%	-7.8%	10.9%	-1.8%	3.1%
参考指数騰落率	—	35.6%	-7.6%	15.0%	-1.4%	6.7%
純資産総額（百万円）	209	835	5,836	9,429	18,332	16,417

- ・ファンド年間騰落率は、参考指数年間騰落率と比較するため、収益分配金（税込み）を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

参考指数は、J.P. Morgan GBI-EM Broad India（円換算）です。詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

投資環境について

（第82期～第87期：2018/9/11～2019/3/11）

利回りの推移

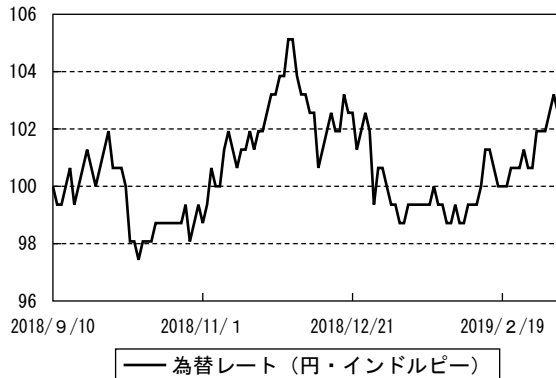


・ 現地日付ベースで記載しております。

◎債券市況

- ・ 作成期間を通してみると、インド5年国債利回りは低下しました。
- ・ 当月作成期首は、インフレ指標が市場予想を下回ったことなどが好感され、利回りは低下しました。2018年10月にインド準備銀行（RBI）が市場の利上げ予想に反し政策金利の据置きを発表すると利回りはさらに低下し、その後も公開市場操作による流動性供給や原油価格の低下によるインフレ懸念の後退等により利回りの低下基調が続きました。RBI 総裁の突然の辞任や、来年度予算案の公表を控え財政赤字悪化への警戒感から利回りが上昇する場面もありましたが、新たなRBI 総裁が迅速に指名されたことやインフレ率の伸び率鈍化を背景に、利回りは総じて安定的に推移しました。そして2019年2月、RBI が政策スタンスを中立とするだけでなく、市場予想に反し政策金利を引き下げたため、ポジティブサプライズとなり、利回りはさらに低下しました。その後は、国境付近で対パキスタンとの緊張が高まりましたが、今のところ市場では冷静に受け止めつつ、作成期末を迎えました。

為替市況の推移 (当作成期首を100として指数化)



◎為替市況

- ・作成期間を通してみると、インド・ルピーは対円で上昇しました。
- ・当作成期首は、米中貿易摩擦の拡大を巡る懸念が強まり、アジア新興国通貨が対米ドルで軒並み下落したことに加え、原油高に伴うインフレ懸念や経常赤字という経済状況、米国長期金利の上昇による新興国からの資金流出懸念等を背景にインド・ルピーは対米ドルで最安値を更新するなどもあり、インド・ルピーは対円で下落しました。2018年10月に入ると原油価格の下落に伴うインフレ懸念の後退や政府とRBIとの緊張緩和などによりインド・ルピーは対円で上昇しました。12月以降は、RBI総裁の突然の辞任や注目された州選挙において与党インド人民党（BJP）が苦戦したことを受け政治リスクへの警戒感が高まったほか、財政赤字拡大懸念も意識されインド・ルピーは対円で下落に転じました。2019年1月に入ると、米国の政策金利引き上げ休止を示唆するハト派的なスタンスや米中貿易交渉の進展期待などにより米ドルが対円で上昇し、さらに、国内インフレ懸念の後退や、投資家のリスクセンチメントの改善等を背景に資金流入が見られたことなどから、インド・ルピーは対円で上昇して作成期末を迎えました。

当該投資信託のポートフォリオについて

i 期間中にどのような運用をしたかを確認できます。

<国際インド債券オープン（毎月決算型）>

- ・インド債券オープン マザーファンド受益証券を主要投資対象とし、組入比率を高位に保ちました。

<インド債券オープン マザーファンド>

基準価額は当作成期首に比べ9.1%の上昇となりました。

- ・インドの公社債、および国際機関債を主要投資対象とし、これらの債券を高位に組み入れて運用を行いました。また、社債については、インベスコ・アセット・マネジメンツ・プライベート・リミテッド（インド）のアドバイスを受け、運用を行いました。
※社債については、インドの企業が実質的に100%出資する企業（所在地はインドに限りません。）が発行する社債を含みます。
- ・インド・ルピー建債券のほか、米ドル建債券にも投資しました。また、米ドル建債券への投資にあたっては、実質的にインド・ルピー建となるように直物為替先渡取引（NDF）等を行いました。
※直物為替先渡取引とは、一種の外国為替先渡取引であり、決済時に元本の受け渡しを行わずに、取引時に決定した取引レートと決済レートの差および元本により計算した額を、米ドル等に換算して、受け渡しを行う取引です。
- ・インドの外国人投資家に対する投資枠を利用して、利回りが相対的に高いインド・ルピー建債券を積極的に組み入れています。
- ・外貨建資産について、対円での為替ヘッジは行いませんでした。
- ・デュレーションについては、作成期の初めは5.0程度とし、作成期末は4.8程度としました。
※デュレーションとは、「金利変動に対する債券価格の変動性」を示すもので、債券はデュレーションが大きいほど、金利変動に対する価格の変動が大きくなる傾向があります。
- ・当作成期は、インド・ルピーが対円で上昇し、インド5年国債利回りが低下したことなどにより、基準価額は当作成期首に比べ上昇しました。

（ご参考）

債券種別組入比率

作成期首（2018年9月10日）

種別	比率
国債証券	37.1%
特殊債券	10.8%
社債等	47.8%
地方債証券	—

作成期末（2019年3月11日）

種別	比率
国債証券	36.4%
特殊債券	11.4%
社債等	47.9%
地方債証券	—

- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
- ・社債等には政府の出資比率が50%を超えている企業の発行する債券が含まれております。

格付別組入比率

作成期首（2018年9月10日）

格付種類	比率
A A A	—
A A	—
A	—
B B B	86.5%
B B	—
B 以下	—
無格付	9.2%

作成期末（2019年3月11日）

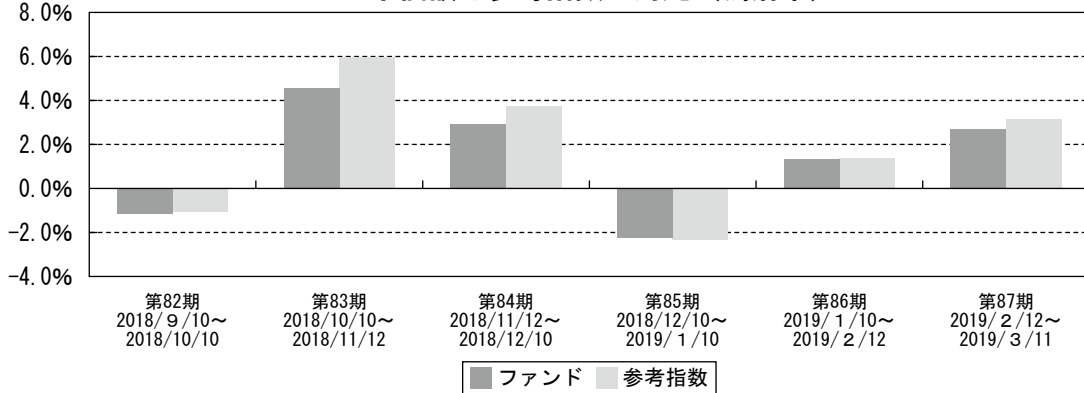
格付種類	比率
A A A	—
A A	—
A	—
B B B	86.3%
B B	—
B 以下	—
無格付	9.5%

- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
- ・格付けは、Moody's、S & P、Fitchの格付けのうち、上位の格付けをS & Pの表示方法で表記しています。（出所：Bloomberg）

当該投資信託のベンチマークとの差異について（第82期～第87期：2018/9/11～2019/3/11）

i ベンチマークまたは参考指数と比較することで、期間中の運用内容を評価することができます。

基準価額と参考指数の対比（騰落率）



・ファンドの騰落率は分配金込みで計算しています。

- ・当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。上記のグラフは当ファンド（ベビーファンド）の基準価額と参考指数の騰落率との対比です。
- ・参考指数はJ.P. Morgan GBI-EM Broad India（円換算）です。

分配金について

i 分配金の内訳および翌期繰越分配対象額（翌期に繰越す分配原資）がどの程度あるかを確認できます。

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

【分配原資の内訳】

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項目	第82期	第83期	第84期	第85期	第86期	第87期
	2018年9月11日～ 2018年10月10日	2018年10月11日～ 2018年11月12日	2018年11月13日～ 2018年12月10日	2018年12月11日～ 2019年1月10日	2019年1月11日～ 2019年2月12日	2019年2月13日～ 2019年3月11日
当期分配金	70	70	70	70	70	70
（対基準価額比率）	1.018%	0.983%	0.965%	0.997%	0.994%	0.977%
当期の収益	29	39	37	25	33	28
当期の収益以外	40	30	32	44	36	42
翌期繰越分配対象額	2,425	2,395	2,363	2,319	2,284	2,242

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針（作成対象期間末での見解です。）

<国際インド債券オープン（毎月決算型）>

◎今後の運用方針

- ・引き続き、インド債券オープン マザーファンド受益証券の組入比率を高位に保ち運用を行っていく方針です。

<インド債券オープン マザーファンド>

◎運用環境の見通し

- ・インドは新興国の中でも相対的に高い経済成長が期待される国のひとつです。政府は、引き続きインフラ整備による経済効率化や対内直接投資の自由化等、構造改革を推進していくと思われませんが、そんな中で注目されるのが、2019年5月までに実施される予定の総選挙において、与党インド人民党（BJP）が引き続き安定的な政治運営ができるかどうかです。インド国内におけるモディ首相への人気は根強く、2016年にブラックマネーの一扫を目的とした「高額紙幣の廃止」を実施したことや、全国統一税制となる物品・サービス税（GST）を導入した実績などを評価する声も少なくありません。安定的な政治基盤が維持され、さらなる経済改革が推進されるのかが注目されます。また、課題となっている財政健全化に向けた政府の姿勢に大きな変更はなく、相対的に堅調なファンダメンタルズは維持されるとみています。そして、引き続きインフレ動向やインド準備銀行の金融政策スタンスなどについても注視していく必要があると考えます。

◎今後の運用方針

- ・引き続き、インドの公社債、および国際機関債を主要投資対象として運用を行い、これらの債券を高位に保ちます。債券市場は概ね堅調に推移するとの見通しから、デュレーションは5.0程度とする方針です。
- ・インドの外国人投資家に対する投資枠を活用した運用を継続します。
- ・インド・ルピー建以外の債券に投資した場合には、原則として、実質的にインド・ルピー建となるように直物為替先渡取引（NDF）等を行います。
- ・外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行わない方針です。

お知らせ

i 受益者のみなさまに知っていただきたいファンドに関するお知らせを掲載しています。

◎約款変更

- ・該当事項はありません。

◎その他

- ・2014年1月1日から、2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%（法人受益者は15.315%の源泉徴収が行われます。））の税率が適用されます。

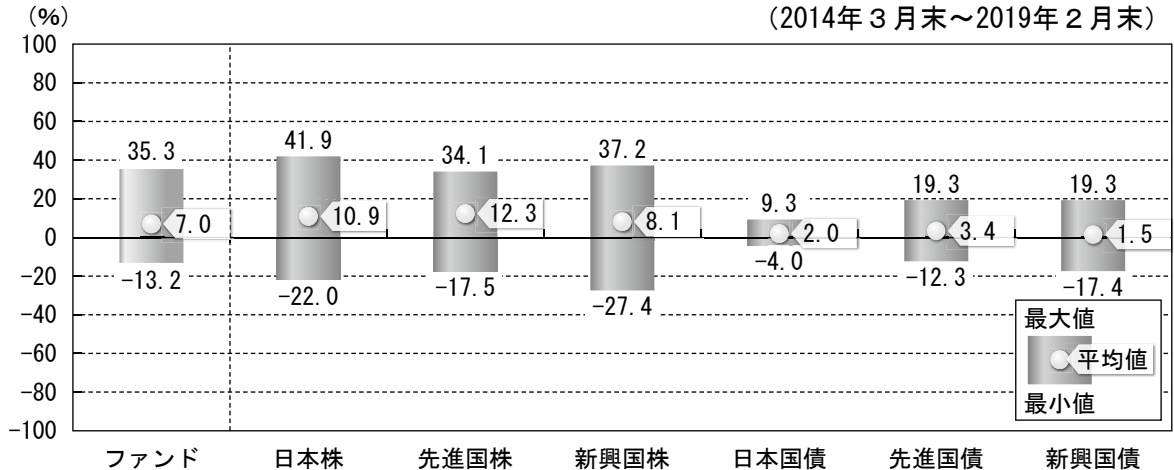
*本書が、受益者のみなさまのお手元に届くのは作成対象期間末から2ヵ月以上が経過していることにご留意ください。なお、最近の運用状況や約款変更の内容等は当社ホームページ（<https://www.am.mufg.jp/>）にて開示を行っている場合があります。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	2021年8月10日まで（2011年12月16日設定）	
運用方針	ファミリーファンド方式により、安定したインカムゲインの確保と信託財産の成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	インド債券オープン マザーファンド受益証券
	インド債券オープン マザーファンド	インドの公社債*、および国際機関債 *社債については、インドの企業が実質的に100%出資する企業（所在地はインドに限りません。）が発行する社債を含みます。
運用方法	インドの公社債、および国際機関債を主要投資対象とし、債券からの安定したインカムゲインの確保および信託財産の成長を目指します。	
分配方針	毎月10日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して、分配金額を決定します。（ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わない場合もあります。）	

ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較

i 当ファンドの基準価額の変動率を他資産と比較することでファンドの値動き特性を捉えるのにお役立てください。



○上記は、2014年3月から2019年2月の5年間における1年騰落率の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて定量的に比較できるように作成したものです。

○各資産クラスの指数

- 日本株：TOPIX（配当込み）
- 先進国株：MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）
- 新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）
- 日本国債：NOMURA-BPI（国債）
- 先進国債：FTSE世界国債インデックス（除く日本）
- 新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

- ・全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。
- ・ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。
- ・騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

当該投資信託のデータ

当該投資信託の組入資産の内容

(2019年3月11日現在)

組入ファンド

(組入銘柄数：1銘柄)

ファンド名	第87期末 2019年3月11日
<input checked="" type="checkbox"/> インド債券オープン マザーファンド	99.7%

・比率は当ファンドの純資産総額に対するマザーファンドの評価額の割合です。

上記 の組入ファンドについて、後掲「組入上位ファンドの概要」の期間が当ファンドの期間と異なる点にご留意ください。

純資産等

項 目	第82期末 2018年10月10日	第83期末 2018年11月12日	第84期末 2018年12月10日	第85期末 2019年1月10日	第86期末 2019年2月12日	第87期末 2019年3月11日
純資産総額	16,708,170,381円	16,744,622,122円	16,945,507,842円	16,298,297,365円	16,261,106,969円	16,417,208,831円
受益権口数	24,543,128,269口	23,750,935,203口	23,579,758,010口	23,440,061,352口	23,315,055,035口	23,140,923,132口
1万口当たり基準価額	6,808円	7,050円	7,186円	6,953円	6,975円	7,094円

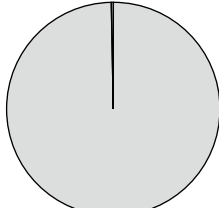
・当作成期間中（第82期～第87期）において
追加設定元本は2,119,245,853円
同解約元本は 3,444,397,767円です。

種別構成等

【資産別配分】

コール・ローン等

0.3%

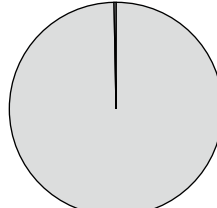


マザーファンド受益証券
99.7%

【国別配分】

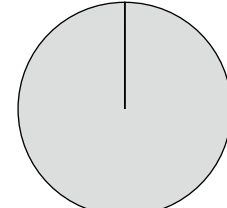
その他

0.3%



日本
99.7%

【通貨別配分】



円
100.0%

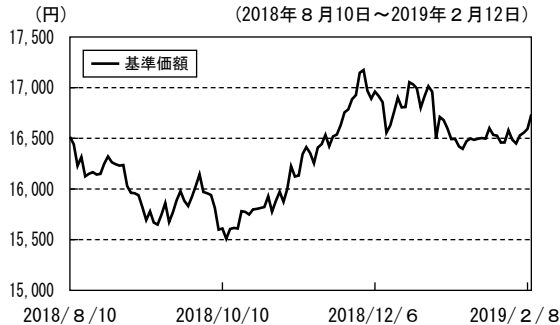
- ・比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
- ・国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。
- ・【国別配分】、【通貨別配分】は、組入ファンドの発行国、発行通貨を表示しています。

組入上位ファンドの概要

インド債券オープン マザーファンド

（2019年2月12日現在）

基準価額の推移



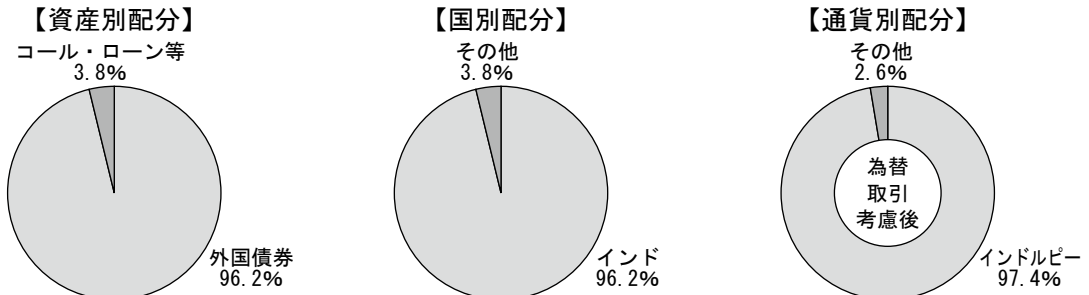
組入上位10銘柄

（組入銘柄数：103銘柄）

	銘柄	種類	国	業種／種別	比率
1	8.15 INDIA GOVT 261124	債券	インド	国債	3.6%
2	7.59 INDIA GOVT 260111	債券	インド	国債	3.5%
3	8.4 INDIA GOVT 240728	債券	インド	国債	3.5%
4	7.59 INDIA GOVT 290320	債券	インド	国債	3.5%
5	7.72 INDIA GOVT 250525	債券	インド	国債	3.4%
6	8.6 INDIA GOVT 280602	債券	インド	国債	3.2%
7	7.88 INDIA GOVT 300319	債券	インド	国債	3.2%
8	5.375 OIL INDIA 240417	債券	インド	社債	3.1%
9	9.2 INDIA GOVT 300930	債券	インド	国債	2.9%
10	7.95 HDFC BANK LT 260921	債券	インド	社債	2.7%

- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
- ・社債には政府の出資比率が50%を超えている企業の発行する債券が含まれております。
- ・なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）でご覧いただけます。

種別構成等



- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
- ・国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。

1万口当たりの費用明細

項目	当期	
	金額	比率
(a) その他費用	6円	0.036%
（保管費用）	(6)	(0.036)
合計	6	0.036

期中の平均基準価額は、16,299円です。

（2018年8月11日～2019年2月12日）

- （注）1万口当たりの費用明細は、組入れファンドの直近の決算期のものです。費用項目の概要については、2ページの注記をご参照ください。
- （注）各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- （注）各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

154040

指数に関して

○ファンドの参考指数である『J.P. Morgan GBI-EM Broad India（円換算）』について

J.P. Morgan GBI-EM Broad India（円換算）は、J.P. Morgan GBI-EM Broad India（インド・ルピー建て、ヘッジなし）（出所：J.P. Morgan）の基準日前営業日の指数を基準日のわが国の対顧客電信売買相場の仲値により三菱UFJ国際投信が円換算したうえ当ファンドの設定日を10,000として指数化したものです。情報は、信頼性があると信じられる情報源から取得したものでありますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2015, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

○「ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

TOPIX（配当込み）

TOPIX（配当込み）とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数（TOPIX）に、現金配当による権利落ちの修正を加えた株価指数です。TOPIX（配当込み）に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIX（配当込み）の算出もしくは公表の方法の変更、TOPIX（配当込み）の算出もしくは公表の停止またはTOPIX（配当込み）の商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）

MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCI コクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

NOMURA-BPI（国債）

NOMURA-BPI（国債）とは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な国債パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI（総合）のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

FTSE世界国債インデックス（除く日本）

FTSE世界国債インデックス（除く日本）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

JPMorgan GBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

JPMorgan GBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J.P. Morgan・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当該指数の著作権はJ.P. Morgan・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。